

總稱眼目爲女呼黑眼及瞳子爲萬奈古無比度美之名後以萬奈古爲白眼黑眼之總名故鄙俗有
萬奈古太萬之稱於是呼黑眼爲久路萬奈古別呼瞳子爲比度美源君眼訓萬奈古、瞬訓久路萬奈
古、眸訓比度美者皆從今名、瞳眸訓萬奈古者依古義也但混殺無別非是○中原書仙窟昨夜眼皮
瞶、今本傍訓女乃不知古本訓萬奈古井又原書眼子三見古本皆訓萬奈古井、萬奈古井又見枕冊
子源氏物語按萬比岐萬奈古井猶今俗云米都岐也眼皮蓋謂眼瞶訓眼皮字爲萬比岐萬奈古井
恐不允

〔類聚名義抄二〕眼 五箇反
〔目〕眼 マナコ

〔伊呂波字類抄未〕眼 マナコ
〔人體〕眼 マナコ

〔下學集上〕眼 マナコ

〔播磨風土記 飾磨郡〕麻跡里土中右號麻跡者品太天皇○應巡行之時勅云見此二山者能似人眼割
下故號目割

〔空穗物語後蔭一〕としかげ略中その山にいたりて見わたせば千丈の谷のそこにねをさしてす
ゑは空につきえだはとなりの國にさせるきりの木をたうしてわりごつくる者あり頭のみを見
ればづるぎをたてたるがごとし足手をみればすきくはのごとし眼をみればかなまりのご
とくきらめきていみじき女おきなこともむまごなどてかうべをつどへて木をきりこなす
〔土佐日記〕五日○承平六年かぢとりのいはくこの住吉の明神はれいのかみぞかしほしきもの
ぞおはすらん略中なをうれしとおもひたぶべきものたいまつりたべといふまたいふに志た
がひていかゞはせんとてまなこもこそふたつあれたゞひとつあるかゞみをたいまつるとて
海にうちはめつればいとくちおし

〔徒然草〕達人の人をみる眼はすこしもあやまる所有べからず